

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終評価、学校関係者評価ともA評価が増加した。教職員が、これまでの課題意識を持ち、保護者や地域とのつながりの中での日々の教育実践を協力的、協働的に行った結果の評価であるとする。</li> <li>いじめ問題の対応について、職員・生徒は改善がなされている。今後は保護者との連携図り、職員研修を重ねるとともに、関係機関からの指導を仰ぎながら未然防止、早期発見・早期対応に努めていきたい。</li> <li>学力の向上について、職員、生徒・保護者が授業改善や工夫がなされていると捉えているものの、本県学習状況調査の結果に結びついていない。知識・技能の確実定着を図りつつ、思考力・判断力・表現力を育む単元を通じた授業改善に取り組む。</li> <li>業務改善、教職員の働き方改革については改善は見られたものの、長時間勤務状態が見られる。校務分掌の平準化や年度途中においても柔軟に業務の割り振りを変更するなど改善に取り組む。</li> </ul>
------------------	--

2 学校教育目標	<p>豊かな心で未来を切り拓く生徒の育成 《めざす生徒像》 持続可能な社会の創り手となる生徒</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>心の教育（人権教育）の充実</li> <li>いじめの早期発見・早期対応</li> <li>学力の定着と資質・能力の育成</li> <li>キャリア教育の推進</li> <li>地域とともにある学校づくり</li> </ol>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○生徒が主体的に学び、「楽しい」と実感できる授業づくりを行う。	○授業の内容が理解できているという生徒の割合を80%以上とする。 ○県学習状況調査結果の対県平均比を1.00以上。	・単元の始めに「ラーニングマウンテン」を提示して、単元を通して身に着たい力を生徒に示す。 ・授業の『めあて』を明示し、『振り返り』の場を設定することで、意欲的に学習に取り組む生徒を育成する。 ・新しい学習指導要領のねらいを具現化する教育活動及び学習評価を実施する。	B	・各教師の特性を生かして、生徒が主体的に学ぶための手立ての工夫に務めた。 ・単元を見通して、学習に取り組ませ、振り返りと通じて、学びをさらによりよい方向へと変容するよう努めた。 ・全国学力・学習状況調査の結果、国語と理科は県に対して有意な差はなかった。数学では、活用型問題の正答率が低かった。全体として全国平均には及ばないが県平均のレベルには達しているといえる。	B	・学校としての努力は最大限の力を発揮されていると思う。あとは家庭環境に左右されるのではないだろうか。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動。	○道徳及び人権教育に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒70%以上。	・人権集会・平和集会や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりや人権教育に関する校内研修及び講話等の実施 ・部活動や学校行事を通して、達成感や成就感を味わわせ、「感動」と「感謝」の心があふれる生徒を育成する。	B	・生徒会を主体として、先輩・後輩双方へのメッセージ書きや給食センターの方への感謝のメッセージ作成など、思いやりと感謝の気持ちを育む取組を行った。 ・道徳は、授業担当を担任と副担任でローテーションで行い、確実に授業を行った。多くの先生で授業を行うので、様々な視点や考えのもとで教育活動ができた。	B	・生きていく中、思いやり、生命を尊重することは大事なこと。今後も継続してください。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実。	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教職員90%以上。	・生徒観察をはじめ、計画的に生活アンケートや教育相談、QUTテストを実施することで生徒の状況を把握し、未然防止・早期発見に努める。 いじめが発覚した場合は、早急に対策委員会を立ち上げ、保護者・関係機関と連携しながら解決を図る。	A	・生徒観察をはじめ、計画的に生活アンケートや教育相談、QUTテストを実施することで生徒の状況を把握し、未然防止・早期発見に繋げることができた。 いじめが発覚した場合は、スムーズに情報共有及び報告を行った。週に1度の生徒指導部会や、月に一度の生徒支援協議会で現状や方向性を確認することができた。	A	・大なり小なりいじめはなくなりません。早期発見・早期対応をお願いします。	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上。	○生徒の主観的な実感や変容について、生徒の振り返りなどで調べる。	・個々が抱える不安や悩み、問題などに適切に対応していく。本人、保護者の思いに寄り添い適切な支援を目指す。 ・職業講話、職場体験学習、進路学習等を通して、将来について考える機会を設ける。	B	・教育相談部会を隔週で開催して、主に不登校(傾向)の生徒の情報共有を図ることができた。また、SCの方に来校していただき、生徒と保護者への相談を実施することができた。QUTテストを実施したが、その結果の分析や情報共有などの事後の研修などを全体として周知できなかった。	B	・引き続き不登校生徒へのケアをおねがいします。 ・良い所を認めてくれていると思う生徒が80%以上で良かったと思います。 ・いじめ問題ですが、不登校生徒についても相談から成果に向かうためのプロセスが情報共有されると良いのですが。 ・心の教育の有識者の講演等に充実に図ってほしい。
	○生徒会活動を通して心の教育の充実。	○生徒の主観的な実感や変容について、生徒の振り返りなどで調べる。	・新入生の歓迎行事、文化委員会等の感謝メッセージの取り組み、図書委員会等の平和集会の取り組みなど。	・専門部会、専門委員会、生徒集会を通して、各委員会ごとで浜玉三訓を徹底するための活動ができた。 ・生徒議会を開催することで、主体的で民主的な活動ができるようになった。	A	・朝食の欠食や残量は減る傾向にあり、給食の量を増やしてほしいという声を聴くようになってきたが、学年によって、牛乳を飲まない傾向があり課題が残っている。	B	・学校だけでは解決できない問題では(量、牛乳)。 ・食べられる喜びを伝えていくことが大事。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」。	●全校生徒の朝食喫食率を90%以上にする。また、給食の残菜をなくす。	・生徒会保健部と連携を図り、残食チェックや給食指導の徹底を行う。 ・保健だより等で健康や病気の予防に良い食事について紹介をする。	B	・朝食の欠食や残量は減る傾向にあり、給食の量を増やしてほしいという声を聴くようになってきたが、学年によって、牛乳を飲まない傾向があり課題が残っている。	B	・学校だけでは解決できない問題では(量、牛乳)。 ・食べられる喜びを伝えていくことが大事。	
	○学校体育・部活動の充実。	○全国体力検査における体力合計点を全国平均値を目指す。	・教員を対象とした講習会や研修会への参加。 ・生徒の自発的な部活動に取り組み、外部コーチを活用するなど合理的・効率的に運営する。	A	・教員研修への参加や外部コーチの活用を進め、合理的・効率的な部活動運営を行った。生徒の主体的な活動を促した結果、男女とも体力検査9種目中7種目で全国平均を上回り、学校全体として体力向上の成果が確認できた。	A		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在職等時間の削減。	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上。	・部活動複数顧問制を有効活用する。 ・部活動終了1時間後に退勤する。 ・会議日は「定時退勤日」とする。 ・年次休暇の取得日数14日以上となるように、学期ごとに取得日数を確認し、積極的な取得を促す声かけを行う。	B	・部活動複数顧問制を効果的に活用でき、部活動終了1時間後に退勤できる職員も増えた。 ・職員1人当たりの年次休暇の取得日数は、平均8日であった。 ・次休暇の取得日数14日以上の数値目標は達成率は35%であった。 ・定時退勤達成に向け、時間設定や会議内容の精選などが次年度への課題である。	B	・働き方改革等、学校現場は人手不足や業務効率化などの課題があり大変だと思う。	
	○業務のデジタル化の推進とチーム学校として組織での対応。	○職員のTeamsの登録を100%。 ○職員会議資料のデジタル化。	・日常的な連絡事項等をTeamsを使うことで、いつでもどこでも確認できるようにする。 ・職員会議は校務用PCで資料を管理することで、印刷をなくす。	A	・職員のTeamsの登録を100%達成。また、はなまる連絡帳も併用し、教職員の全体での内容確認を行った。 ・全ての職員会議で校務用PCで資料を提示ができた。印刷・配布等の必要がなくなり業務改善につながった。	A		
●特別支援教育の充実	○個々の生徒に応じたきめ細かい対応の実践。 ・授業計画を随時見直しして対応する。 ・交流学級との連絡を密にする。	○個々の生徒に応じた適切な支援ができていると回答した教職員70%以上。	・教育支援部会や生徒支援協議会を通して、支援について共通理解、共通実践を行い、支援体制を強化する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、積極的に支援会議を実施する。 ・授業計画を随時見直しして対応する。 ・交流学級との連絡を密にする。	A	・行事の計画運営をそれぞれの担当を中心に円滑に行うことができた。 ・授業計画の見直しを随時行い、個に応じた対応ができた。保護者からの反応も良好だった。	A		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○志を高める教育	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進。 ○人権教育の推進。	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒90%以上。 ○人権教育に関するアンケートに肯定的な回答をした生徒70%以上。	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・人権教育に関する講話等の実施。	A	・学年ごとに道徳・総合の学習の時間を通して、人権について学ぶ機会を適宜取り入れた。 ・総合的な学習の時間を中心に、地域・進路・平和について学年ごとに学習した。その成果を文化発表会ステージ発表や展示発表で披露し合うことで、学校全体で、志を高める活動を行うことができた。	A	・夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答えた生徒が90%以上は素晴らしいと思います。
○小中・地域連携	○小中連携と地域連携の充実。	○小中連携や地域連携を図り、生徒の教育活動の充実が図れたと回答する教職員が75%以上にする。	・小中連携会議を実施して、情報の共有を図り、小中連携を推進する。 ・本校の方針を発信し、地域との協働を行い、理想的な関係づくりを推進する。	B	・小中連携会議を実施し、生徒の活動の充実を図り、次年度の見直しを持たせた。 ・本校の方針は学校だよりを通じて発信を行い、地域との関係づくりの推進を行った。	B	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育							
5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・健康・体づくり、業務改善、特別支援教育の充実の項目については、昨年度の評価を上回る結果となった。教職員が課題意識を持ち、日々の教育実践を協力的、協働的に行った結果であるとする。</p> <p>・いじめ問題の対応については、教職員が高い意識を持ち日々の指導にあたれている。次年度も保護者との連携を図り、職員研修を重ねるとともに、関係機関からの指導を仰ぎながら未然防止、早期発見・早期対応に努めていきたい。</p> <p>・学力の向上については、職員100%、生徒93%、保護者84%が授業改善や工夫がなされていると捉えているものの、教科や分野によっては各種の調査の結果に結びついていない。知識・技能の確実定着を図りつつ、思考力・判断力・表現力を育む単元を通じた授業改善に取り組む。</p> <p>・働き方改革の推進については、年次休暇の取得日数の目標達成ができなかったため、次年度は学期ごとに取得日数を確認したり、長期休業中の積極的な取得、課業日においても短時間の取得などを促す声かけを行いたい。</p>						